

知床硫黄山

1 概況

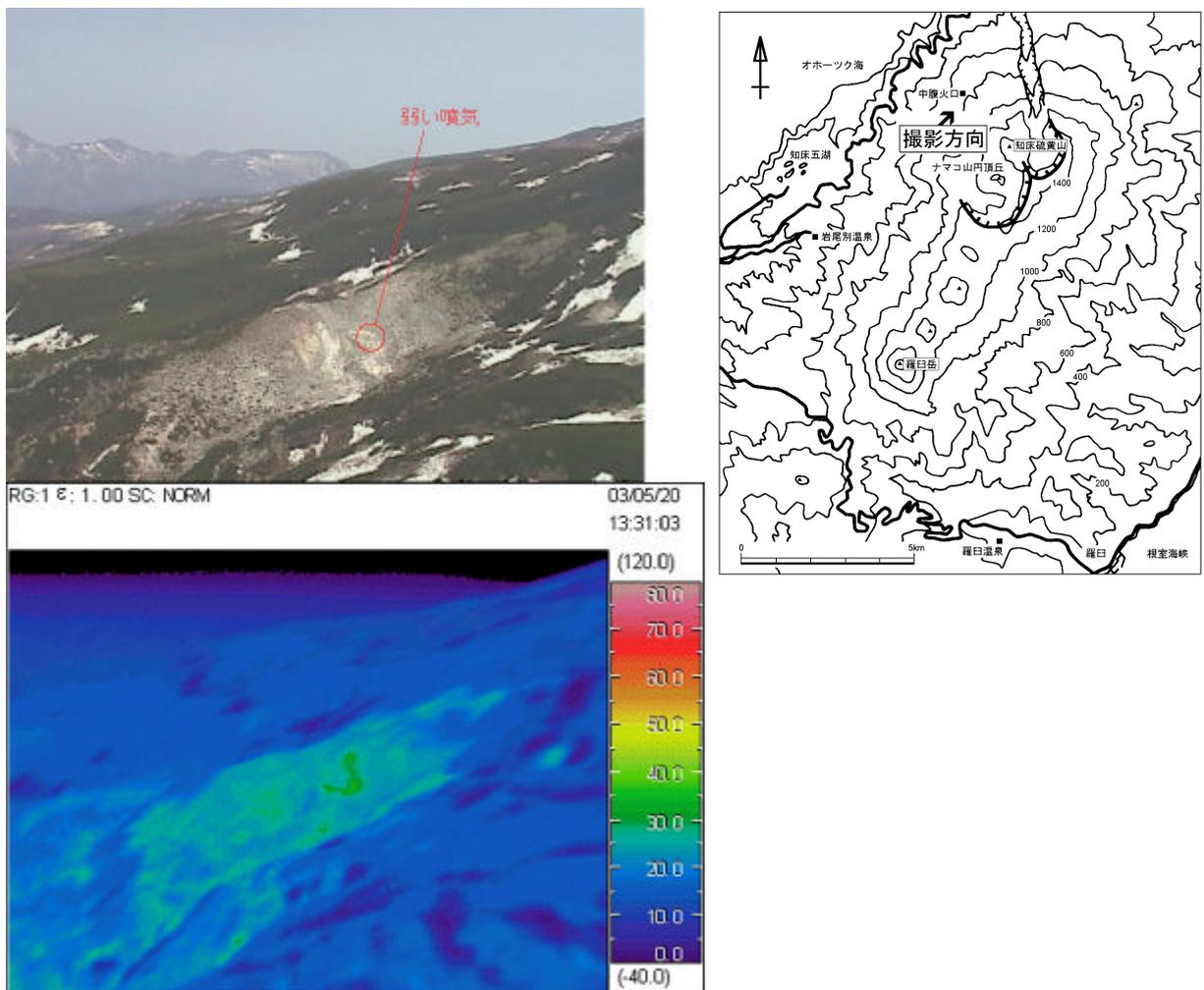
上空からの観測では、従来から知られている弱い噴気と地熱域が中腹火口で認められましたが、特に異常はありませんでした。

2 上空からの観測結果

知床硫黄山の北西中腹には、安政年間から昭和初期まで、融けた硫黄を流出する珍しい噴火活動を繰り返してきた火口があります(最後の噴火は1936年(昭和11年))。1992年(平成4年)に札幌管区気象台が実施した機動観測によると、数か所で白色の噴気が観測されたほか、温泉の湧出や沸点程度の地熱が認められていました。

5月20日に北海道の協力により実施した上空からの観測では、中腹火口の中央部から弱い白色の噴気が上がっており、赤外熱映像観測では噴気が見られた所に対応した地熱域が確認されました。これらの状況は1992年当時とほとんど変わっていません。

なお、山頂部には顕著な地熱域は認められませんでした。



南西側上空から見た中腹火口の赤外熱映像
 (2003年5月20日13時31分、天気晴れ：北海道消防防災ヘリコプターから撮影)
 写真中央下部の植生のない部分が中腹火口、中央に弱い噴気が認められる。赤外熱映像では地熱域が緑色の領域として表現されている。